

# 〈社会の科学〉分科会報告

東京・竹田かずき

kazuki0517@gmail.com

〈社会の科学〉分科会は、1日目午後、2日目午前の2コマ行いました。発表者は9人、資料は18本、会場には10～30名の参加者がいました。発表はどれも聞き応えがあるもので、充実した分科会でした。そのときどきに、発表に対する意見が飛び交ったり、問題に対して討論が起こったりしました。全ては難しいので、ここではとくに印象的だったものを紹介します（発表順）。

## ●長岡仁美（神奈川）

### 「黒板いっぱいラクがき」他2編

短い文章ながら、長岡さんと生徒さんたちとのふれあいが見えてくるようでした。社会の時間に《もし原》を授業したこともあったそうで、そのとき、ご自身の子供のころの経験として「原子・分子のことが分かると社会のことがよく分かるようになる」という話を紹介したそうです。とても素敵なお話でした。

## ●阿部徳昭（宮城）

### 「《あかりと文明》外伝① もしもペリーが来なかったら」

### 「《あかりと文明》外伝② ペリーの素性と日米関係」

《あかりと文明》で、油の研究が続く阿部さん。今回は、ペリーと、鯨油の関係に迫る研究です。ペリーといえば、江戸時代後期、日本に開国を求めた米国人です。そのペリーは、なぜあの時期に日本にやってきたのでしょうか。私は、ペリーのことを「日本

史の中で、必ず出てくる人」と捉えていました。しかし、よく考えてみたら「開国を求めにやってきた」ことは知っていても「何のために」か、全く知りませんでした。普段気にしていないことが、気になり、そしてそれを知ることで世界が広がる研究でした。

それにしても、油の研究は、幅広く奥が深い！ いかにも「油によってもたらせる〈灯り〉」が、人びとにとって大事だったのかが見えてくるように思えました。

### ● 浜野純一（兵庫）

#### 「日本が承認する国しない国」

《世界の国旗》の小改訂点の話題から、「2015年に日本が承認した〈ニウエ〉という国は、他の国は承認してるか」という問いが始まります。その後、問いを重ね、「日本は承認しているが、世界の大半は承認していない国」や、「日本は承認していないが、世界の大半は承認している国」など、いろいろな国や歴史がまとめられていました。「国とは何か」「国交を結ぶとはどういうことか」などが見えてくるようで、とても興味深いものでした。

### ● 門馬寛（福島）

#### 「高校野球と時代・地域」

表題の通り、高校野球にスポットをあてたものです。歴史をさかのぼり、「日本の植民地（外地／南樺太・朝鮮・台湾）は、大会へ参加していたか？」や、さらには「満州の代表も大会に参加していた」、「戦後、米軍の統治下におかれた沖縄は、大会に参加したか？」まで、話が広がりました。

「高校野球から見る、日本と、その周辺の地域・国の歴史」という感じで、新たな視点から歴史を見ることができました。

## ●松川靖（岩手）

### 「満州国と移民」

1932年に建国された満州国。その人口はどのように移り変わったのか、その中で、日本人はどれくらいの割合をしめたのか？……そんな話題から始まります。そして、「日本から満州国に渡った〈移民〉は、いつ、どの都道府県から、どのようなキッカケで渡ったのか」などの問題を経て、「平和」や「教育」を考えさせられるものでした。

## ●竹田かずき（東京）

### 「社会の法則を探る～社会物理学の始まり～」

「統計を見ると、毎年繰り返される数がある」に注目した1800年代の科学者、アドルフ・ケトラー（1796～1874）の話です（まだ未完です）。「殺人事件の認知数は、毎年同じくらいなのか、そうでないのか」などを扱い、長岡清・板倉聖宣著『社会にも法則はあるか』につながる話になるのではないかと思います。

## ●中林典子（神奈川）

### 「＜日本と世界の発電量と内訳＞授業記録」

日本と世界の発電量について、中学3年生と授業をした記録です。元は、松崎重広さん・肥沼孝治さんのプランで、そこに最新の発電データも加えています。討論がとても活発で、読み応えがあります。「＜テレビニュースでなんとなく聞いたこと＞と＜実際のこと＞が違う」という感想が、とても重要に感じました。テーマである「発電量の実態」だけでなく、「なんとなく見聞きすること」と「実際の数量データ」の差を意識する授業としても、このプランが、もっと広まるといいのではないかと思います。